

ぱるす

ぱるす

発行日 2016年 3月10日 第31号

発 行 札幌歯科医師会口腔医療センター

〒064-0807札幌市中央区南7条西10丁目
TEL (011) 512-9497 FAX (011) 511-2272

<http://www.dnet.or.jp/center>

E-mail omc-s@dnet.or.jp

発行人；諸留 裕 発行責任者；山田 尚

口腔医療センター新所長 諸留 裕



昨年の7月より口腔医療センター所長に就任しました、諸留(もろとめ) 裕(ゆたか)です。どうぞよろしくお願ひいたします。前任は、総務・会計を担当しておりましたので、種々のセンター事業の運営のサポートを行っていました。

さて、口腔医療センターは1973年に設立されました。まず開設と共に夜間救急歯科診療がスタートし、1982年に障がい者診療部が続き、1998年には摂食外来が開設されました。以前は、札幌歯科医師会の付属機関として、ある程度独立した機関として運営されていましたが、国の「法人改革」の流れで本会も一般社団法人となり、現在ではセンターも本会の1部署となっています。その結果、診療に関しては従来の目的並びに運営を継承しながら、各種講演会・講習会等の活動は、時に他の部署との共同事業を実施する部署として現在に至っています。近年、診療技術の進歩に伴い設備もできる限り整備してまいりましたが、診療環境の向上としてはまだまだ不足です。基本に返ります。医療は人とのかかわりから始まります。センターに従事するすべてのスタッフが患者さんに接する医療人としてなすべき姿勢を理解している必要があります。全ての患者さんにご満足頂けますよう、そしてより安全で安心な歯科医療をめざしてセンター所員、スタッフ一体となって全力を尽くすつもりです。よろしくご理解をお願いいたします。

「ぱるす」の発刊の目的は当センターの診療スタッフと患者さんやそのご家族の方と楽な意見交換です。まだまだ発展途上です。今後は記事や構成を見直してより気楽で魅力のある内容にしたいと考えております。ぜひ、イラスト、写真、センターへのご意見等、さらにはスタッフへのお手紙などを心よりお待ちしております。

口腔医療センター新総務部長 濱 秀樹



はじめまして、昨年7月より口腔医療センター総務部長に就任しました、
濱(はま) 秀樹(ひでき)です。どうぞよろしくお願ひ致します。

口腔医療センターは、夜間救急歯科診療、障がい者歯科診療、摂食嚥下リハビリテーションと、地域医療の核となる施設でございます。所員、担当医をはじめ歯科医師会会員の先生方、北海道大学、北海道医療大学、札幌医科大学の先生方のご協力のうえで成り立っております。歯科医の先生方はもちろん事務局、スタッフとの連携を密にし、センターの環境整備および地域医療をより充実したものとすべく精一杯頑張って参ります。

地域の皆さん方におかれましては、安心して気軽に利用できる施設になるよう、気になることや不安な点、改善してほしいこと等ございましたら、センタースタッフに申し付けください。少しずつでもより良い施設になるよう、センターに関わるすべての方々と協議、検討し、改善していくたいと思っております。



【口腔医療センター所員、伊藤直樹先生が

日本摂食嚥下リハビリテーション学会奨励賞を受賞】

2015年9月11、12日に国立京都国際会館で開催された第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会において、当センター所員、伊藤直樹先生が日本摂食嚥下リハビリテーション学会奨励賞を受賞しました。本賞は摂食嚥下リハビリテーション医療の発展に多大に寄与する優秀な業績を認められた研究者に与えられる賞です。受賞演題は「三次元コンピューターグラフィックス（3DCG）を用いた嚥下モデルの製作～舌筋走行の再現と嚥下機能の考察～」です。三次元コンピューターグラフィックスを駆使した独創的なアイディアが学会で認められ、この受賞により当センターの名前が全国的に広く認知されることになりました。

●伊藤直樹先生受賞コメント●

「此の度は日本摂食嚥下リハビリテーション学会の奨励賞を幸運にも頂くことができました。これは一重に共同演者の方々や御指導頂いたセンターの先生方の御力によるものと考えております。嚥下障害は人類にとって切実な問題であり、基礎研究の課題としても深い魅力があります。今後も時間の許す限り関わって行きたいと思っております。」



日本摂食嚥下リハビリテーション学会 奨励賞

伊藤 直樹 関田 勝介 及川 透 原口 克博
鄭 漢忠 松崎 博季 斎藤 博 北村 清一郎

貴殿の演題「三次元コンピューターグラフィックス（3DCG）を用いた嚥下モデルの製作～舌筋走行の再現と嚥下機能の考察～」（平成26年東京）は極めて優秀であり、今後の摂食嚥下リハビリテーション医療の発展に寄与するところ多大と認めここに表彰します

平成27年9月11日

一般社団法人 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
第20回学術大会 大会長 石川 順

Japanese Society of Dysphagia Rehabilitation





新人歯科衛生士

自己紹介

昨年の7月より障がい者診療部で勤務しております 長尾 まゆみ（ながお まゆみ）と申します。今まで勤務していた一般歯科とは違い、色々な事が初めてで勉強の毎日ですが、先輩スタッフ、患者さん、御家族、施設の方々に支えられながら頑張っております。

今後ともよろしくお願ひいたします。（写真 前列右）

昨年の8月より障がい者診療部で勤務しています 薄 泉（うすき いずみ）と申します。先輩スタッフのご指導のもと毎日たくさんの事を教えていただきながら頑張っています。これからも患者さんと向き合いながら努力していきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。（写真 前列左）

昨年の12月より障がい者診療部で勤務しております 伊坂 あゆみ（いさか あゆみ）と申します。まだ、数ヶ月しかたっておらずわからないこともありますが、少しずつがんばって勉強していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

（写真前列真中）

【編集後記】

機関紙「ぱるす」も平成10年の創刊から数えて31号になりました。
まだまだ続きますのでよろしくお願ひします。

口腔医療センター企画研修部